

2 組立ての工夫

学校種や学年、教科等によって、授業の組立て方は異なります。そのため、教師が児童生徒に学習の見通しをもたせる、学級の実態に応じて授業構成や学習形態を工夫する、児童生徒が互いに考えを共有する活動を取り入れる等の工夫が大切です。それにより、児童生徒は授業内容に見通しをもち、主体的に活動に参加することができるようになりますと考えます。これらに配慮した支援例を紹介します。

支援例

【小学校】 タイマーを用いて活動時間を明確にする



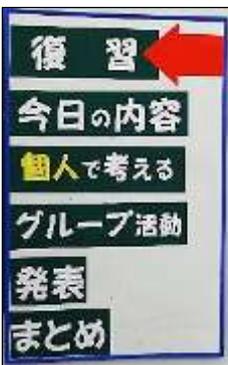
児童が、時間の区切りを意識して活動に取り組むことができるように、活動時間を予告しタイマーで知らせる。

【小学校】 身体を使った学習活動を取り入れる



児童が、学習に集中して取り組むことができるように、様々な感覚を使わせる活動を取り入れる。

【中学校】 学習活動の流れを掲示する



生徒が学習の見通しをもち、学習に集中して取り組むことができるように、1時間の活動の流れをホワイトボードに掲示する。

【中学校】 個人や全員で考える活動を取り入れる



注意の持続がしやすくなるように、授業の中で様々な活動を取り入れる。

【高等学校】 導入で前時の学習内容を提示する



学習の見通しをもつことができるように、導入で前時の学習を振り返る。

【高等学校】 ペアやグループで考えを共有する活動を取り入れる

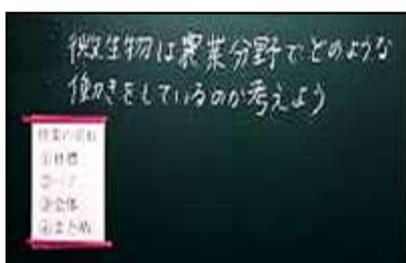


自分の考えを明確にしたり、互いの考えを共有したりできるように、ペアやグループでの話し合いを取り入れる。

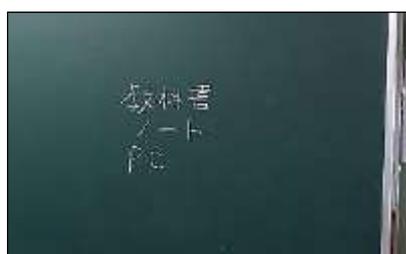
その他の支援例

| | |
|-----------------|--|
| 授業の見通しをもたせる | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業開始の3分前にタイマーが鳴るように設定する。 ・ 授業開始前に、次の授業に必要なものを黒板に表示して伝える。 ・ 導入で、前時の学習内容のポイントを黒板や電子黒板に提示し、児童生徒が学習を振り返ることができるようにする。 ・ 導入で、本時のめあて(目標)やポイント、学習内容、学習の流れ、活動手順等を視覚的に提示する。 ・ 児童生徒にとって活動内容が分かりやすくなるように、1単位時間での学習活動の流れを図示したものの横に磁石を貼り、学習活動に応じてそれを動かす。 ・ 教科に応じた授業のパターン(一定の型)を決める。 ・ 「導入ー展開ーまとめ」のように、毎時間、一定の流れで授業を進める。 ・ 1つの課題が終わった後、次にする課題を準備している。 ・ 課題の手順、作業の終了、約束事、必要な道具等について、文字や絵等で提示する。 ・ 課題の手順表を作成し、児童生徒が適宜確認したり振り返ったりできるようにする。 ・ タイマー等を活用したり、終了時刻を表示したりして、児童生徒にとって活動時間の区切りが分かりやすくなるようにする。 ・ まとめで、児童生徒が振り返りカードに記入することで、本時の自分自身の活動への取り組み方について振り返ることができるようにする。 ・ まとめで、教師が黒板や電子黒板を用いて、本時の学習のポイントを示しながら振り返る。 ・ 授業の終わりに、次時の学習内容について伝える。 |
| 授業構成や学習形態を工夫する | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の興味や関心を意識した学習内容を設定する。 ・ 授業の目標を明確にして、学習内容の中心となる学習活動を設定する。 ・ 聞く活動、書く活動、読む活動等、様々な学習活動を取り入れる。 ・ 操作活動や実験等、体験的な学習活動を取り入れる。 ・ 1つの学習活動を10～15分ごとに短く区切る。 ・ 授業の中で、様々な感覚(視覚・聴覚・触覚等)を使わせる工夫をする。 ・ 個人学習、ペアやグループ学習等、様々な学習形態を取り入れる。 |
| 考えを共有する活動を取り入れる | <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアやグループによる話し合いを取り入れる。 ・ ネームプレートを用いて、児童生徒の考えを黒板に示す活動を取り入れる。 ・ 児童生徒が、友達との教え合いや答え合わせ等を行うことができる時間を設定する。 |

このような支援も取り入れています



導入で、学習課題や学習の流れ等を視覚的に提示する。



授業開始前に、次の授業に必要なものを黒板に表示して伝える。



振り返りカードで、本時の自分の話し合い方を振り返る。